

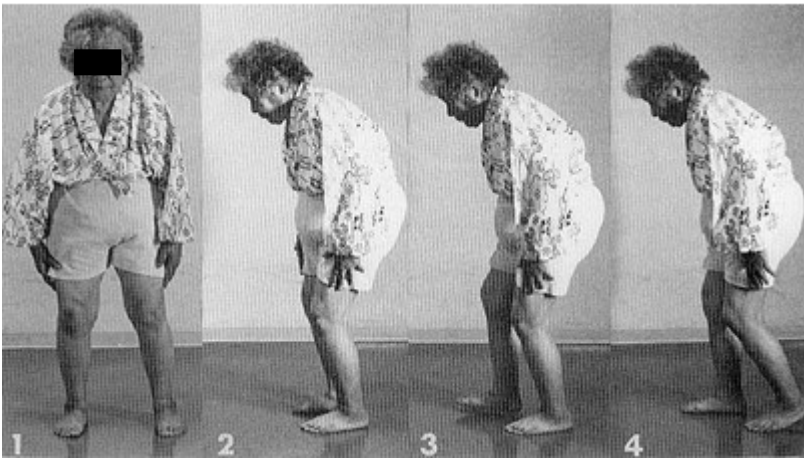
のうけっかんせいぼーきんそんしょうこうぐん 血管性認知症と脳血管性パーキンソン症候群

原因

・長年の高血圧、動脈硬化、繰り返す脳梗塞のために、徐々に大脳の前頭葉機能が低下し、認知症や歩行障害や頻尿と尿失禁を起こすようになります。

症状

- ・認知症は性格変化(怒りっぽい、意欲低下)や嚥下障害(むせこみ)を伴うことがあります。
- ・足を横に広げ、小刻みにチョコチョコ歩くようになり、転びやすくなります。
- ・手足の関節が硬くなり、ふるえることもあります。
- ・頭部 MRI (T2 強調画像) で脳梗塞や血行障害があるところが白く光って見えます。



似たような症状をおこす病気

- ・パーキンソン病の運動障害はしばしば症状が片側だけで始まります。
- ・腰痛、膝の痛み、甲状腺機能低下症などは足腰のレントゲン撮影や血液検査で診断します。
- ・アルツハイマー病や正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫は頭部 CT・MRI 検査で診断します。
- ・正常圧水頭症と慢性硬膜下血腫は脳外科手術で治療が可能です。

治療法

- ・内服薬ではニセルゴリンという脳血流改善薬やアマンタジンというパーキンソン病治療薬が効くことがあります。アマンタジンは副反応(幻覚や興奮状態など)に注意しつつ徐々に増量します。
- ・認知機能と歩行機能のリハビリテーションも重要です。介護保険の申請をお勧めします。
- ・高血圧、糖尿病、高コレステロール血症など動脈硬化の原因があれば治療をいたします。

みやさきクリニック 宮崎秀健